

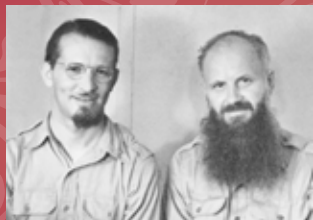


今年の教区の目標

交わり深め 力あわせ
救いのおとずれ広げよう

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2022年10月1日（毎月1日発行） カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第767号（10月号）



オーバン神父(左)・レイ神父(右)

琉球列島宣教師再来島 75周年記念感謝ミサ

1947年9月5日に那覇飛行場に降り立った宣教師たちの再来島から75年を迎えた今年、9月4日が日曜日に当たるのを機に、福音宣教再開75周年の感謝ミサが安里の聖堂で捧げられた。

当日はウェイン司教と押川名誉司教、教区司祭と教区で働く修道司祭たちの共同司式でミサが捧げられ、沖縄の宣教に従事された司祭たち、恩人、友人の方々への感謝が捧げられた。

この日のために、記念カードが作成され、参列いただいた方々に配られた。カードにはウェイン司教と押川名誉司教から下記のメッセージが添えられた。

ウェイン司教：「先輩宣教師方の双肩（土台）に乗って、私たちは使命を果たしつつづけています。その事を決して忘れることなく、彼らの遺志を受けつぎ生き活きとした宣教共同体を目指しましょう。」

押川名誉司教：「少年の頃、私は宣教師の中に神を体験した！レイとオーバン両師の来琉による宣教再開は、確かな神のみ摂理の中で始まった。数知れぬ信徒の支援を忘れず、宣教師の苦勞と実りを振り返り、神への感謝を捧げたい。」

Let It Be Done To Me According To Your Word. (Luke 1:37-38)



“Let it be done to me according to Your word”, was Mary’s response as she said yes to be the mother of our savior. These words/response was also our theme during our first vows that inspired us to offer our lives as Mary did. Mary’s “Yes” to God’s will encourage me to do the same as I accepted my new assignment. I pondered and even in my prayer, I had struggles, questions, and troubling feelings. But I continued to reflect on how Mary responded and with the assurance of the angel’s word “Be not afraid” somehow ease those feelings and

felt that there was nothing to be afraid of. For nothing will be impossible for God.

When I arrived in Okinawa, I admired their culture and tradition, discipline in many aspects, politeness, and respect for people and creation. Even though I cannot speak their language, they are willing to assist if you need help. I was given the opportunity to participate in the Annual Summer Camp at Mission Beach Okinawa, I have been to some parishes, and also a privilege to hear and saw the presentation and tribute during the celebration of grandparent’s day at Kainan Catholic Church. The Sanshin – a three-stringed, banjo-like instrument covered in snakeskin that features heavily in traditional Ryukyuan music, their karate which is known as the “martial art of peace, (heiwa no bu) and Eisa – Okinawa’s Traditional dance. This memorable event amazed me and I felt their passion as they present their traditional music and dance.

Then, my Miyako and Ishigaki exposure somehow gives me a glimpse of our mission engagement with the migrants, Christian and non-Christian, and with the children in school. I listened to, learned, and live their way of life and how they cope with the challenges and difficulties even for a short period.

Finally, as I prepare myself for language study, I pray and believe that God would always guide and give me the necessary graces every day as I fulfill His mission here in Japan. And with Mary’s teaching on how to make God’s word fruitful in my own life: by humility and obedience, by saying with St. Paul (Phil 4:13), “In God who is my source of strength, I have strength for all.”

By: Sr. Merry Joy B. Lumahang, OND





ロザリオの元后 この世界に まことの平和を！

藤澤 幾義 神父

石川教会 主任司祭

援する会の季刊誌「きずな」No. 一五八号に一人のシスターが書いておられるのが目に留まりました。「黙想会で聴いた話ですが、不思議のメダイを付けているとお告げを受けたそうで、大量のメダイが中国に送られた



実りの秋、読書の秋、食欲の秋等々、いい季節の十月を迎えました。沖縄の場合は未だ暑さが残っているのですが、それほどいい季節とは言えないこともあるかもしれません。でもいい季節に近いことは間違いないと思います。教会は十月をロザリオの月として全世界の信者と心を合わせて聖母の取次ぎを祈り求めます。

私たちも教区の皆さんと一緒に「祈りの秋」「ロザリオの秋」としたいものです。コロナは名を変え、品を変えて、この世界に君臨し続けています。早くマスクからの解放、そしてウクライナの平和の実現を望むところです。日本カトリック海外宣教者を支

そうです。この話をしたら、ベトナムのシスターが回りの村は皆懼っているのに、自分の村はだれも懼っていない。無原罪のマリア様が保護者だそうなんです。私も早速付けました」と出ていました。

神様のお恵み、マリア様の取次ぎは、信仰を持っていたら、お祈りだけをしていれば奇跡的なお恵みを頂くというわけではありませんが、イエス様の最初の奇跡、カナの婚礼の水をぶどう酒に変えられた奇跡を思い起こしましょう。「ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、『ぶどう酒がなくなりました』と言った。イエスは母に言われた、『婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。私の時はまだ来ていません。』しかし、母は召使たちに、『この人が何か言いつけたら、その通りにしてください』と言った」（ヨハネ二・3-5）。イエスが召使に言われた通りにそれを行うと、おいしいぶどう酒が変わっていた。

母が、カルワリオで十字架から母とそのそばにいる愛する弟子を見て、母に「婦人よ御覧なさい。あなたの子です」と言われます。それから弟子に「見なさい。あなたの子です」（ヨハネ十九・26-27）と言われ、マリア様は救われるすべての人の母となられたからです。

母親は子供を守るためには命を懸けて守ろうとします。マリア様の母として悪の世界から守ろうとする役割も同じだと思います。創世記のことばに「おまえと女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕きお前は彼のかかとを砕く」（創世記三・15）とあるように、マリア様は、悪魔に対して力ある存在、最強の力ある方として立てられているからです。



それでカトリック教会は「マリアを通してイエスへ」「PER MARIAM AD JESUM」のモットーを大事にして聖性への道をたどることにしているのです。聖人たちの姿を見ると、それが示されています。そして、これがこそが聖性への一番近道だからです。無原罪の聖母の熱愛者と言われる聖マキシミリアノ・コルベは牢獄での生活、餓死牢の中で、苦しみに耐え、ナチス兵の鞭と足蹴りに、そして餓死牢の中での飢えと渇きに耐え抜くことができたのは、無原罪のマリア様が共にいてくださるとの聖マリアに対する深い信頼関係があったから最後まで耐えることができたのです。私たちも聖人たちが歩まれたようにマリア様と共に歩んでいくように致しましょう。

ロザリオは、ご存知のように、アヴェ・マリアの祈りを繰り返して唱える祈りですが、ロザリオは、ラテン語の「ローザ」（ROSA）を語源としています。「ROSA」はバラの花のことです。ロザリオはバラの花環とかバラの冠という意味になります。

マリア様に美しいバラの花を捧げる心が、ロザリオの祈りに込められているのです。この十月の間、たくさんロザリオを唱えて、コロナの終息、ウクライナの平和のためにバラの花環をマリア様にお捧げするように致しましょう。

2022年9月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2022年9月6日(火) 10:30～12:00

会議前にフランシス神父のお父様の追悼ミサがウェイン司教と司祭団の共同司式で捧げられた。

1. 報告及び連絡事項：司会はデニス神父が担当。

- ・ 前回(8月会議)の議事録の確認を新田が行い、新しく来たシスターの所属の表記が ODNではなく ONDであると訂正され、承認された。
- ・ 9/4に行なわれた宣教師再来島75周年記念感謝ミサの報告が津波古事務局長から行われた。台風の影響もあったが、参列者は100名余を数え、盛会のうちに感謝ミサを捧げることができた。押川名誉司教がこの日のために準備された宣教師たちの手紙や報告書の翻訳書も出版され、押川名誉司教の記念講演と宣教師の思い出のわかちあいがなされた。なお、『実録宣教史 カトリック琉球列島ミッション 宣教師たちの手紙』は文化センターで頒布される旨報告され、全員から押川司教のご苦勞に感謝の拍手が贈られた。
- ・ カリタス那覇の取り組みについて担当のマーシーさんから報告が行なわれた。国際カリタスのキャンペーンである「Together We」の提言を受けて、教区では開南、安里、首里、小禄の4つの小教区の子どもたち、小学校、中学校、高校生を対象に、10月15日土曜日の午後2時から5時まで、安里教会において「環境問題について一緒に考える」取り組みを準備しているので、司祭たちへも協力要請が行なわれた。
- ・ その他
- ・ 基地内の従軍司祭から訪問したい旨依頼があり、本日の昼食を一緒に摂ることがウェイン司教から報告された。
- ・ 欠席のブイ神父は典礼研修会への参加のため、ナビーン神父とマイケル神父が休暇のため欠席していることも合わせてウェイン司教から報告された。
- ・ 8月下旬にコンヴェンツアル会の谷崎管区長が来訪され、稲国神父に9月中の長崎への人事異動が通達された。これにより高齢の会員の為用意された施設のある湯江修道院への移転が決まったことが報告され、続いて稲国神父から司教・司祭団へのお別れと感謝の挨拶がなされた。
- ・ 有馬神父は施設で元気に過ごされていることが主任司祭の古川神父から報告された。
- ・ 新しい「ミサの式次第」司祭用(カトリック中央協議会版)は教区で一括して購入するので、小教区単位では購入せず、小教区は必要な冊数を教区に報告するよう要請が行なわれた。

2. 審議事項

- ・ ウェイン司教からコロナの感染状況について提言された。感染拡大に留意しながら、教会活動を継続して行くことや、信徒たちと話し合っ、聖歌も歌えるようにして良いことが述べられた。但し、休暇や研修で他所へ出かける際はPCR検査を積極的に活用して、健康管理を徹底するよう要請が行なわれた。
- ・ 9月の司教予定について、マーシーさんから報告と調整が行われた。9/4は小禄教会にてラサール神父の1周忌追悼ミサを主式。午後は宣教師再来島75周年記念ミサを主式。9/12～17日ズームを使って黙想会の指導。9/10、読谷教会の公式訪問、堅信式。10/2、小禄教会公式訪問。
- ・ シノドスについて、日本の教会の回答書の読み合わせを行って、午前の部を終了して、昼食休憩に入った。※昼食
- ・ 待降節第一主日から導入される新しい「ミサの式次第」の読み合わせが、ウェイン司教の解説も交えて行なわれた。大きな変更となるため、1回では半分ほどしか読み合わせができず、次回司祭会議でも午後から「ミサの式次第」の読み合わせを行うことが決められた。
- ・ 次回拡大司祭・助祭会議は2022年10月4日(火) 午前10時から12時、昼食を挟んで、午後2時から新しいミサ式次第の読み合わせと研修が、安里教区センターで行なわれることが報告された。

2022年9月16日 承認：ウェイン・フランシス・バート司教 記録：新田 選

名護教会の六十年間の歩みは、今年六月に発行した「カトリック名護教会創立六十周年記念誌」に詳しく記されている。その間の私個人としての想いを振り返ってみよう。

名護教会が石川教会の巡回教会として始まったのは一九六〇年で、石川教会主任司祭のルーシン神父様は、愛楽園教会も巡回しておられた。私は一九六三年に伝道師の比嘉高哲先生から神の言葉を聞き、洗礼の恵みを頂いた。その二年後に初代ホセ・ガルディアーノ神父様により石川教会から独立、特

に子供の信者が増え、また伊江島にも巡回教会ができた。一九六六年、ホセ神父様は、うみのほし幼稚園と名護教会を建築。

教会は幼稚園の一部の部屋だった。うみの

ほし幼稚園は名護市で有名になり、名護教会の誇りだった。当時の幼稚園の主任は佐敷多賀子先生だったが、その後幼稚園や教会を支えるために、ノートルダム教育修道女会のシスター方が派遣されてきた。シスター方の働きは私たちにとって励みであり、信仰の支えだった。

幼稚園の一部を聖堂としていた頃、一九七八年に第六代主任司祭チャールズ・プロザット神父様の提案で、あらためて園舎の二階に聖堂が造られた。名護教会のマリア祭の創始者もプロザット神父様で、高い旗頭とマリア様の神輿を担ぎ、

運動場を行列する大きな祭だった。その頃、ボートで海を渡ってきて、本部町の収容所にいたベトナムの方たちもマリア祭に参列し、数年間主日のミサにも与り、兄弟姉妹として交わった。また、プロザット神父様は、琉球民謡によるミサ曲を愛楽園教会の天久佐信さんに依頼し、一九八二年にご自分の銀祝の際、皆で歌いウチナーグチの歌に感動した。

二十余年過ぎた頃、地上一階の独立した教会堂を望むようになり、「よし、建てよう」と皆の気持ちがわくわくした。

鐘など、全てが新しくなり、聖堂は輝きに満たされた。二〇一五年、新聖堂献堂式が押川司教様の司式によって行われ、三百人の皆様の参列によって盛大に祝われた。詩編一八「今日こそ神が造られた日、喜びうたえこの日をともし」が痛感された。ブイ神父様は同年十二月中庭にルルドのマリア像を造られ、祈りの場としてくださった。

ノートルダム教育修道女会からは、名護教会、愛楽園教会、うみのほし幼稚園に四十五年間十六名のシスター方を派遣していただいたが、

たて軸よこ軸

名護教会六十周年の想い出

名護教会 ヨセフ 比嘉是勝

二〇二〇年四月をもって本土の修道院へ帰られ、淋しい思いである。現在、マリアの汚れなき御心修道会よりシスターアン、シスターマリーが赴任され、奉仕をいただいている。

教会献堂五年目に向かって、「創立六十年と献堂五周年」を祝う記念行事や記念誌発行等の計画をボスコ神父様と共に一丸となって進めていった。コロナ禍のため予定より一年遅れとなったが、二〇二一年五月九日に記念感謝ミサがウエイン司教様の司式によって荘厳に捧げられた。記念誌はその後完成し、各小

区、修道会等へ贈られた。

《私の思い》 晩年になって心に残っている思いを書きたい。

私の入信当時の信仰は、自分中心で神

を見つけたとか、単純で、神はいたという感じだった。天地創造をなさった神を見つけられるはずはない。次第に聖書を読み、教会に通っているうちに、神が私を見つけてくださったことを知った。入信間もない若い時、大きな誤りがあった。

それはある日曜日の朝、久しぶりに親友が訪ねてきたとき、私は教会へ行かなければと思い、後で会おうと言い、教会へ出かけた。あとで考えた。私は親友を見捨てて教会へ行ったことで、良心が苦しんだ。

なぜあの時、教会へ一緒に行こうと誘わなかったのか、なぜ彼を放って自分だけが教会へ行ったのか。考えてみると、神と私という縦だけで、横のつながりがない一本の木だけでは、キリストの十字架にならないのだとわかった。私は、まだキリスト者ではない、私には隣人愛がないと痛感した。人が道端に倒れているのを見て、まず教会へ行つてミサにあずかってから、後で助けようとするだろうか。私には信仰も愛もないことがわかった。人生の中では、誰でも同時に二つ三つの問題に会い、どれを優先するのか試される時がある。

この頃になって思うことは、信仰の中に生活があること。信仰の中で食事をし、信仰の中で働き、信仰の中で最後を過ごしたいということである。九月十八日のミサの福音に、二つのうちどちらを選ぶべきか記されている。「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」(ルカ十六章十三節)。

教区 NEWS 教会

追悼ミサ

九月六日に行なわれた司祭助祭拡大会議の前に、午前九時三十分から聖堂において安里教会主任のフランス神父のお父上、ヨセフグイエンタンニアン様の追悼ミサが、ウエイン司



教と司祭団の共同司式で捧げられた。去る七月七日、息子が休暇でベトナムへ帰って来るのを待っていたかのように帰天されたとのこと。ご自身の召命に大きな影響を与えた父親の存在をフランス神父は感謝とともに分かち合ってくださいました。ご子息を司祭として捧げ、沖縄での宣教にお捧げくださった

たしましょう。

フランス神父のお父上に、神様が安らかな憩いをお与えくださるようお祈りいたしましょう。



一周忌追悼ミサ

九月四日、ラサール神父が帰天され一周忌に当たるとの機に、小緑教会ではウエイン司教をお迎えして、主任のマキシム神父と共に、追悼ミサが捧げられた。沖縄での宣教活動に生涯を捧げた神父様に神様からの豊かな恵みがありますように。



教皇庁典礼秘跡省は、2021 年 5 月 23 日（聖霊降臨の祭日）付で、日本の司教団から提出されていた以下の式文を認証しました（Prot.N.148/14）。



- ・「ミサの式次第と第一～第四奉献文」
- ・「ミサの結びの祝福と会衆のための祈願」
- ・「水の祝福と灌水」

日本司教団はこの認証を受けて、2021 年度日本カトリック司教協議会第 1 回臨時司教総会（7 月開催）において、これらの新しい式文によるミサを 2022 年 11 月 27 日（待降節第 1 主日）から実施することを決定しました。

今後、上記の期日からの実施に向けて、各共同体で準備を進めることとなりますが、そのための資料として『新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所－2022 年 11 月 27 日（待降節第 1 主日）からの実施に向けて』が発行されました。この冊子には、改訂作業の経緯や基本方針などのほか、認証された式文の全文とおもな改訂箇所の解説が掲載されています。今後予定されている各教区における新しい式文の説明会や各共同体での勉強会などの機会にもご活用ください。

11 月 27 日（待降節第一主日）から新しい「ミサの式次第と奉献文」の実施に向けて、日本カトリック典礼委員会が準備した「ミサの賛歌（ミサ曲）」の楽譜と音源をカトリック中央協議会のホームページからダウンロードすることができます。練習のために楽譜をコピー、印刷してお使いください。

日本の教会の皆さまへ

「第 16 回世界代表司教会議（シノドス）の日本の教会の回答書」を提出することができることを喜びに思います。今回、日本の教会としての回答書を作成するにあたって、多くの信徒、奉獻生活者と司祭にご協力いただいたことにあらためて感謝いたします。

また、新型コロナウイルス感染症が蔓延するという困難な状況の中で、各教区のシノドス担当者の働きのおかげで、これほど多くの意見と要望が寄せられたことにも感謝してやみません。

各教区での意見収集は、新型コロナウイルス感染症の拡大、ロシアのウクライナ侵攻、世界各地で起こる自然災害など大きな困難のなかで実施されましたが、それぞれの共同体に識別の機会を与え、今回のシノドスが意図しているように、シノドスの準備としてではなく、まさにシノドスに参加しているものとなりました。識別する共同体が、「ともに歩む教会」の姿を示し、困難の中にある人々に励ましと勇気と希望をもたらすものとなることを期待しています。

日本司教協議会は、各教区と連携しながら以下のように行いました。

2021 年 5 月、世界代表司教会議第 16 回通常総会（2023 年 10 月開催予定）“For a Synodal Church: communion, participation, and mission”（ともに歩む教会のため一交わり、参加そして宣教）の準備に関する書簡（Prot.N.210114）と資料を受理しました。

2021 年 10 月、教皇がシノドスの歩みを始める開会宣言を行い、各地方教会でシノドス開始のための宣言をすると同時に 2 年間かけて、教皇庁と各国の教会で進めるスケジュールに従い、各教区に担当者またはチームの任命を行うことを通達しました。また、教皇庁シノドス事務局からの指示に従い、アジアの司教たちと、シノドスの進め方について感想と質問を分かち合うことを目的にウェブミーティングを行いました。シノドスに向けた『準備文書』（Preparatory Document）と『手引書（vademeccum）』を各教区に配布し、アンケートの回答方法などを通じて「シノダリティ（ともに歩む）」の重要性を強調しました。

また、キリスト教諸派とともに歩むようにとの要請を受けて、2022 年 7 月 21 日に、日本聖公会・日本福音ルーテル教会・日本キリスト教協議会（NCC）からの意見の聴くための懇談会と合同礼拝を開催しました。

このような経緯でまとめられたものが「第 16 回世界代表司教会議（シノドス）の日本の教会の回答書」で、この英語訳を教皇庁シノドス事務局に提出します。

こうしたわたしたちのシノドスの歩みにより、これからの日本の教会と社会がイエスの福音により近づくものとなることを願ってやみません。

2022 年 8 月 15 日 聖母の被昇天の祭日

日本カトリック司教団

※「第 16 回世界代表司教会議（シノドス）の日本の教会の回答書」は主任司祭を通して、各小教区にも配られています。
読み合わせや分かち合いを通して、小教区でも活用していきましょう。



カリタス那覇、小中高生の集い

ともに私たちは

より良い明日のために今日行動しよう

カリタスジャパンのテーマにもとづいて、カリタス那覇と、那覇市内にある4小教区のコラボレーションキャンペーン企画です。まずはできることから始めましょう。集まっていっしょにかんがえましょう。

日 程：10月15日(土) 14:00～17:00まで 場 所：カトリック安里教会

訃報

◆開南教会

セシリア 喜納 節子 様

二〇二二年八月三十一日 帰天

享年八十六歳

◆読谷教会

リンクス・ロバート・ジョゼフ 様

二〇二二年九月六日 帰天

享年八十八歳



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

